

患者さんへ

「戦略的ハイブリッドアプローチ(後腹膜→経腹膜)によるロボット支援下腎摘除術の臨床的評価」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての以下の情報を公開することが必要とされています。

1 研究の対象	2025年7月～2030年12月に当院泌尿器科でハイブリッド RARN (Robot-assisted Radical Nephrectomy)を受けた腎がん患者さん
2 研究目的・方法	<p>ロボット支援腎摘除術(RARN)は、低侵襲かつ安全な腎腫瘍手術を可能とする手技として普及しています。通常、経腹膜または経後腹膜いずれかのアプローチが選択されますが、それぞれの限界を補完すべく、両者を戦略的に併用する新手法(ハイブリッド RARN)を当院で導入します。</p> <p>ロボット支援腎摘除術(RARN)において、複雑な腫瘍や癒着例では、経後腹膜アプローチで迅速に腎門部を処理し、広範な操作が必要な場合に経腹膜アプローチへ移行する「ハイブリッド戦略」が有効で、この戦略により、手術時間の短縮、合併症リスクの低減、症例に応じた柔軟な対応が可能になると考えます。</p> <p>この研究では、腎門部腫瘍または複雑な血管解剖を有する腎がん症例に対し、安全性と低侵襲性を両立する新たな手術アプローチとして、ハイブリッド RARN の有用性を検討します。</p> <p>研究の期間:施設院長許可(2025年8月予定)～2030年12月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「6. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、腫瘍径、腫瘍部位、腫瘍病理、腎門部血管走行、アプローチ別の手術時間、出血量、合併症、入院日数、切除標本における腫瘍断端、術後合併症の有無(Clavien分類)等
5 個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
6 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:</p> <p>大関 孝之(研究責任者) 和泉市立総合医療センター 泌尿器科 住所:大阪府和泉市和気町 4-5-1 連絡先:0725-41-1331</p>